

「私は、常に、どこまでも純粋な 3針ビッグ・パイロット・ウォッチを デザインしたいと思ってきました」

IWCのクリエイティブ・ディレクターを務めるクリスチャン・クヌープが、自分にとってのビッグ・パイロット・ウォッチの意義、その象徴としての地位を支えるものについて語りました。また、ビッグ・パイロット・ウォッチ43開発の動機についても説明し、デザインプロセスを振り返ります。

ビッグ・パイロット・ウォッチのあなたご自身にとっての意義とは何でしょう？

実を言うと、ビッグ・パイロット・ウォッチは私がIWCに入った理由のようなものです。2002年に「ビッグ・パイロット・ウォッチRef. 5002が発表されると、私はたちまちその純粋でシンプルなデザインに惹かれました。デザイナーとして、「フォルム（形）は機能に従う」という原則を妥協なく実践する姿勢に感銘を受けたのです。大型ケース、特大の円錐型リューズ、視認性に優れた文字盤、すべてのディテールに理由があります。さらにビッグ・パイロット・ウォッチは、1990年代初頭に始まった、高級時計としてのパイロット・ウォッチの地位の確立というIWCの戦略を物語る存在でもあります。これほど早い時期に軍用時計の機能的なデザインと現代的な機械式ムーブメントを組み合わせたことは、大きな先見性のある一歩でした。IWCはこれによって、今では時計業界でごく一般的となったトレンドの口火を切ることになりました。

ビッグ・パイロット・ウォッチの象徴的な地位を支えるものは何でしょう？

このように特徴的なデザインのDNAに多種多様な創造的試みを組み合わせたウォッチは他にありません。長年にわたり、およそ80種類もの特別限定モデルが発売されており、中にはビッグ・パイロット・ウォッチ“モハメド・アリ”のような著名人に捧げられたものもあります。その他のモデルにも感動的な物語が詰まっています。ユニーク・ピースの“プティ・プランス”は、IWCのブランドアンバサダーを務めるブラッドリー・

クーパーが第91回アカデミー賞[®]授賞式で着用した後、アントワーヌ・ド・サンテグジュペリ・ユース財団支援を目的としたオークションにかけられました。ビッグ・パイロット・ウォッチには、これまでに、ホワイトゴールドやプラチナからセラミック、カーボンまで考えられるほぼすべての素材が採用され、永久カレンダーを始めとするさまざまなIWCの複雑機構が組み込まれてきました。この途方もない多様性は、象徴としての地位をさらに盤石なものにしただけでなく、IWCの発明家精神、そして創造性豊かな手法を示すものとなっています。

ビッグ・パイロット・ウォッチ43を開発する動機となったのは何ですか？

多種多様なモデルの発表を通して、私たちはビッグ・パイロット・ウォッチの象徴的な地位について認識を深めましたが、同時に、人間工学の観点から限界があることも把握していました。デザインは気に入っても、46 mmのサイズでは抵抗を感じる方も大勢います。そこで、より人間工学に配慮されたケースサイズの新しいバージョンで製品のポートフォリオを補完することを決断したのです。もうひとつ私たちの興味をそそったのは、1940年代に誕生した初代の極めて純粋なデザインに回帰し、文字盤に余計なものがないシンプルな3針ウォッチを製作する機会になるということでした。パワーリザーブ表示も日付表示窓もない究極の純粋なビッグ・パイロット・ウォッチというアイデアは、IWCコミュニティの中では長年話題にのぼってきまして、個人的にも常々、3針のビッグ・パイロット・ウォッチをデザインしてみたいと考えていました。

ビッグ・パイロット・ウォッチ43の特徴は何ですか？

ビッグ・パイロット・ウォッチ43の製作にあたって、80年以上前に生み出された象徴的なデザインの純粋な本質を磨き上げました。すなわち、余計なもの一切ないシンプルな3針の文字盤のみのデザインです。ケースのサイズとプロポーション、リュウズのフォルム、文字盤のデザイン、針の形状といったあらゆるディテールに入念に手を加え、改良しました。43 mmケースとサイズは小さくなったものの、大胆な存在感をそのままに非常に快適な着用感を兼ね備えています。もうひとつの特徴は、ストラップをすばやく交換できるEasXチェンジ・システムです。多彩で魅力的なカラーが揃ったカーフスキン・ストラップやラバー・ストラップに加え、初めてメタル製ブレスレットが用意されました。ビッグ・パイロット・ウォッチ43を駆動するのは自社製キャリバー82100です。この高品質自動巻きムーブメントには、セラミック製のパーツで強化されたIWC伝説のペラトン自動巻き機構が搭載され、その駆動の様子はサファイアガラスの裏蓋を通して見るすることができます。

新しいモデルの開発における主な課題にはどのようなものがありましたか？

主な課題のひとつは、着用性と着用したときの存在感のバランスでした。私たちが新しいモデルに求めたのは、着用が容易で、なおかつビッグ・パイロット・ウォッチらしい外観を備えていることでした。開発の初期段階では、42 mmから44 mmまでのさまざまなプロトタイプを用いて完璧なケースのプロポーション、直径と厚さの比率を探りました。まず3Dプリンターによるプロトタイプから始め、すぐによりリアルな感覚を求めてメタル製のプロトタイプへと進みました。もうひとつの課題となったのは文字盤のデザインで、完成させるのに大変苦労しました。さまざまな太さの線やフォントサイズで実験し、文字盤および針の仕上げを何種類も試しました。作成されたプロトタイプは数多く外れでした。結局のところ、単純で簡単に思えることほど実際に成し遂げるのは非常に難しいものです。

なぜEasXチェンジ・システムを組み込んだのですか？

長年にわたり、そのほとんどはストラップだけでしたが、多くのお客様がビッグ・パイロット・ウォッチをカスタマイズされるのを目にしてきました。このことは、ビッグ・パイロット・ウォッチのデザインの汎用性と同時に、自分らしい

スタイルや個性を表現したいというお客様の気持ちをはっきりと示しています。さらに、現代の人々は、水中、あるいはもっと過酷な環境でも着用できる機能性の高い時計を求めています。そのために、実用的で使いやすいEasXチェンジ・システムを備えたビッグ・パイロット・ウォッチ43を作りました。ホワイトのステッチを施し、4個のリベットが配されたカーフスキン・ストラップに加え、スポーティでカラフルなラバー・ストラップ、新しく開発したステンレススティール・ブレスレットも用意されています。

新しいメタル製ブレスレットを開発するにあたって考慮されたのはどのようなことですか？

80年のビッグ・パイロット・ウォッチの歴史上初めて、ステンレススティール・ブレスレット・モデルを発表しました。象徴的なデザインにふさわしいだけでなく、パイロット・ウォッチ・コレクション全体にもうまく調和するブレスレットを開発するために、多くの時間と労力を費やしました。5連のリンクでデザインの純粹さがいっそう際立ち、ウォッチにクリアで現代的な外観をもたらします。ポリッシュ仕上げとサテン仕上げを組み合わせた美しい形状は存在感があり、光を効果的に反射します。微調整が可能なシステムにより、簡単にブレスレットを調整して快適に着用できます。10気圧防水となったケースと組み合わせることで、新たにスポーツウォッチとしての性能とフレッシュでオリジナリティのあるルックスのブレスレットとなっています。

軟鉄製の耐磁性インナーケースではなく、シースルーの裏蓋を採用されたのはなぜですか？

IWCのパイロット・ウォッチの多くは、元々はマーク11のために開発された機能で、ムーブメントを磁界から保護する耐磁性軟鉄製インナーケースと歴史的な結びつきがありました。このナビゲーション・ウォッチは、1948年に英国空軍の厳格な要件を満たせるよう開発されたものです。46 mmのビッグ・パイロット・ウォッチにこの特徴を受け継がせる一方で、ケースを小型化して厚みを減らし、サファイアガラスの裏蓋を採用したビッグ・パイロット・ウォッチ43を発表することを決断しました。自社製ムーブメントの動作を観察できるということで、多くのお客様から評価されています。

IWCシャフハウゼン

1868年、米国の時計技師であり、起業家でもあったフロレンタイン・アリオスト・ジョーンズはボストンからスイスへ渡り、シャフハウゼンに「インターナショナル・ウォッチ・カンパニー」を設立しました。彼が描いた夢は、先進的なアメリカの製造方法とスイスの時計技師たちが持つ優れた職人技を組み合わせ、その時代の最高の懐中時計を作ることでした。そして彼はIWCの独創的なエンジニアリング手法の基礎を築き上げ、スイスの地で機械式時計の集中生産を確立しました。

IWCシャフハウゼンは150年にわたる歴史の中で、正確かつ頑丈で、顧客にとって使いやすいクロノグラフやカレンダーなどの機能を組み合わせた時計を生み出すことで高い名声を得てきました。またIWCは、チタンやセラミックなどの素材の先駆者であり、チタンアルミやセラタニウム[®]などの先進的な素材を用いたテクニカルウォッチケースの製造もおこなっています。華美な装飾よりも「形態は機能に従う」という原則を優先するスイス時計メーカーとして、時代を超越した製品への思いは、まさに人生を旅するオーナーたちの夢と志を体現しています。

IWCは、責任を持って素材を調達し、環境への影響を最小限に抑える措置を講じながら、何世代にもわたり受け継がれる持続可能な時計を生み出しています。また、すべての従業員に快適な職場環境を提供し、誇りをもって未来を担う時計職人とエンジニアたちへのトレーニングを実施しています。さらに、IWCは子供たちと青少年への支援に向けて世界的に活動している組織とも提携しています。

ダウンロード

画像はpress.iwc.comでダウンロードいただけます。

お問い合わせ

IWCシャフハウゼン

広報部門

Email press-iwc@iwc.com

Website press.iwc.com

インターネットおよびソーシャルメディア

Website iwc.com/ja

Facebook facebook.com/IWCWatches

YouTube youtube.com/iwcwatches

Twitter twitter.com/iwc

LinkedIn linkedin.com/company/iwc-schaffhausen

Instagram instagram.com/iwcwatches_jp

Pinterest pinterest.com/iwcwatches